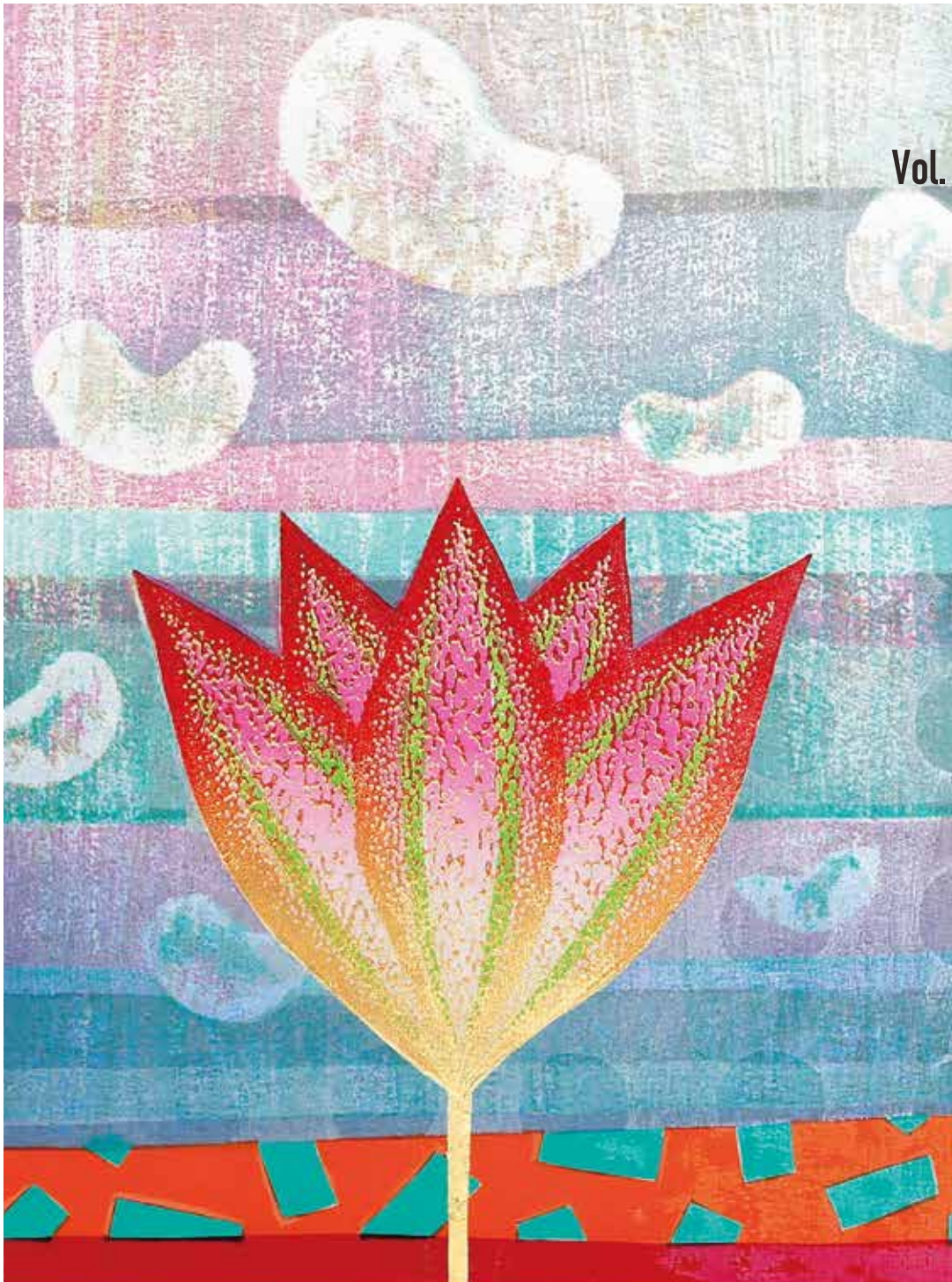


LSUWKAH

渭水会々報

2023.12月発行

Vol. 52



※2023年3月、平木美鶴先生(徳島大学総合科学部教授)のご厚意で渭水会に寄贈いただきました

「Flower of a lotus」 平木美鶴氏

夏の夜明けに咲き始めた蓮の花。移りゆく空の微妙な色合いは水彩で、蓮の花は油性インクと金箔を重ねて立体的に。あでやかな色彩は香るようなみずみずしさだ。鳴門市大津町の編集者の生家はレンコン畑の中にあった。緑の葉の海に浮かぶように咲く蓮の花——幼い日の夏の風景が鮮やかに蘇った。(木版画 2019年)

発行：徳島大学渭水会（徳島大学総合科学部同窓会）

2024年は徳島大学総合科学部創立150周年



1874-2024

国立大学法人

徳島大学
総合科学部

徳島大学総合科学部は、2024年（令和6年）、その前身である徳島師範期成学校の創設から数えて150周年を迎えます。この節目の年に際し、学部と渭水会が連携し、さまざまな記念事業を開催します。卒業生の皆様のご参加を心よりお待ちしております。また、これらの事業を成功させ、学部のさらなる発展につなげるため、募金活動も行っております。皆様のお力添えをいただければありがたく存じます。

2024 10/19 [土] ホームカミングデー当日イベント

● 記念講演会「スポーツと地域創生」※事前に申込みが必要です

2024年10月19日 [土] 午後

徳島大学地域連携プラザ「けやきホール」にて開催予定

講師 尾崎徹也 氏（ミズノ株式会社執行役員）
武知実波 氏（プロサーファー、本学卒業生）
中塚健太郎 氏（総合科学部准教授）

● 記念イベント

2024年10月19日 [土] 10時～12時

総合科学部2号館にて、学部教員・学生による国際・心身健康・地域をテーマとした体験型ブースを出展。申込不要・参加無料。

● 写真展・年表パネル展示

徳島師範期成学校～学芸学部～教育学部～総合科学部にわたる150年を、懐かしの写真、年表などで振り返ります。

● 記念式典 ※事前に申込みが必要です

2024年10月19日 [土] 午後

徳島大学地域連携プラザ「けやきホール」にて開催予定。
150年のあゆみを紹介した記念映像も公開する予定です。

● 祝賀会 ※事前に申込みが必要です

2024年10月19日 [土] 午後

徳島大学生協食堂「Diningキララ」2階
立食形式の祝賀会（アフタヌーンパーティ）です。
お気軽にご参加ください。

詳細、申込方法などはWebサイトで。
来秋発行の会報53号でもご案内します。

● 総合科学部150周年記念事業Webサイト

<https://www.tokushima-u-soka150.com>



その他、総合科学部創立150周年記念誌（Web版）編纂、在校生の教育支援事業、地域連携事業など、さまざまな事業に取り組んでいます。

● ご寄附のお願い

本記念事業を成功させるため、皆様からのご寄附をお願いしています。詳細は同封のパンフレットをご覧ください。

期 間 2025年（令和7年）3月まで

ご 寄 附 額 一口 5,000円から

返礼品の贈呈

1口（5,000円）以上ご寄附いただいた方には金額に応じて返礼品を贈呈させていただきます。写真は返礼品の一例です。



トートバッグ
（10,000円～19,999円）



ステンレスマグ
（20,000～29,999円）



成層圏ビール
25241M 2本セット
（30,000～49,999円）

● 渭水会独自の事業

記念モニュメントの制作・寄贈

メモリアルイヤーの象徴となる記念モニュメントの制作を、本学部卒業生の彫刻家・武田亜希子氏にお願いしています。10月19日の記念行事当日に除幕式を行う予定です。

オリジナルグッズの制作

昨年のクリアファイルセットに続き、「徳島大学愛」あふれるグッズを制作中です。売上げは、制作費を除いて全額学部へ寄附する予定です。

クリアファイル
セットは
大好評でした!



目次

徳島大学総合科学部創立150周年記念事業

AIからのヒント	涓水会会長 石井 博 ……	4
学部長からのご挨拶	総合科学部長 高橋 晋一 ……	5

Topics 日本人としてのルーツを生かした抹茶パン、英国の大会で二冠に輝く	青悦 美代 ……	6
---	----------	---

連載⑩ 私の職場 My Workplace		
●「Baby Kumon」に魅せられて	公文式北佐古教室 指導者 河野 輝江 ……	8

特集 バックステージ ～文化を創る公共施設の舞台裏～		
●勝敗は戦う前に決まっている	徳島県郷土文化会館 事業課主任 川口 剛 ……	10
●ガイドとしての仕事	徳島県立文学書道館 職員 和田 輝 ……	12

研究最前線⑪ インターネット嗜癖に対する生理心理学的アプローチ		
	徳島大学大学院社会産業理工学研究部 社会総合科学域人間科学系心理学分野 准教授 津村 秀樹 ……	14

常三島今昔③ ●プレイボール！ ……		15
---------------------------	--	----

総科をたずねて⑥		
●総合科学部創立150周年記念応援事業発足します！	総合科学部地域創生コース 教授 矢部 拓也 ……	16
●ハートに光をつけて ～光演出技術による心の調整～	徳島大学大学院社会産業理工学研究部 准教授 山本 哲也 ……	17

連載⑤ パターン認知の心理をめぐって		
●皮膚感覚における神経活動	徳島大学名誉教授 濱田 治良 ……	19

輝く新星⑨ ～第9回涓水会会長賞～		
●6年間の大学生活と私の変化	眞島 凌 ……	20
●社会人に生きる力	原 桜子 ……	21
●計画的偶発性	小嶋 誉大 ……	22
●苦手なことへの挑戦	山内 美優 ……	23
●涓水会会長賞表彰要項 ……		24

エッセイ ●必然の出会い	西山 伸二 ……	25
●徳島大学とともに！	西 賀代 ……	26

助成事業		
●徳島市退職校長会講演会	石川 和幸 ……	28
●第5回 阿波の国子ども歌舞伎公演 ～感動を広げよう～	瀬戸 昌子 ……	29

総科ニュース ……		40
徳大ニュース ……		42
会員の情報 ……		43
事務局だより・編集後記 ……		44

お詫びと訂正	昨年発行の会報51号におきまして、記載内容に誤りがありました。下記のとおり訂正させていただきます。ご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。 ●8ページ 執筆者の森口茉莉亜様の肩書き (誤) 特任教授 → (正) 特任助教
--------	---



渭水会会長
いしい ひろし
石井 博

AIからのヒント

昨秋公開された対話AIの「ChatGPT」が世界中で人気になる一方で、ルールが十分に整備されていない中での開発や普及を懸念する声も高まっています。

生成AIは人間の仕事や創造的活動の生産性を飛躍的に上げる可能性があります。真偽不明の情報が大量に流布したり、学生が自ら創造すべき学習内容時に、安易に頼ってしまうなど、従来にはなかったような現象が起こりうるリスクも潜みます。AIについては、功罪両面をふまえて、これから社会がどのように向き合うべきかを世界全体で考える必要があります。

このようなAIに、好奇心から、渭水会の今後目指すべき方向を聞いてみました。答えを要約すると次のような内容でした。

一つは、徳島大学の150周年記念事業に協力すること。

渭水会は、徳島大学の創立150周年を迎える令和6年度に向けて、様々な記念事業に参加したり、渭水会会報やWebサイトで150周年記念事業の告知、寄付金の募集、記念グッズの作成・販売などを行っていく。

二つは、渭水会会員の交流と情報共有を促進すること。

渭水会は、徳島大学総合科学部の卒業生や教職員を対象とした同窓会であり、会員同士の親睦や連携を深めることが重要です。定期的に総会や講演会、懇親会などを開催したり、渭水会々報やWebサイトで、徳島大学や総合科学部の最新情報や会員の活動報告などを発信していく。

三つは、徳島県や社会に貢献する活動を展開すること。

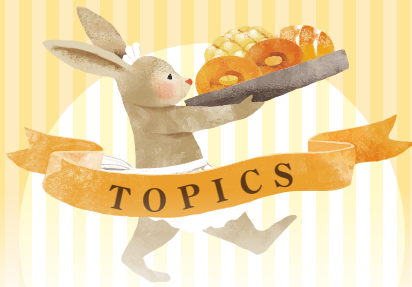
渭水会は、徳島県や社会における教育や文化の向上に寄与することを目指し、教育課題研究会や徳島の教育を考える会などを通じて、教育に関する議論や提言を行ったり、また、阿波の国子ども歌舞伎などの文化活動にも支援や助成を行っていく。

問い方によってその都度、AIの答えは異なり、多くの場合、今後の方向は渭水会の会員等で考えるべきだ、とのことでした。

先ずは、これから150周年記念事業にしっかりと取り組み、思い出多き素晴らしい実践となりますよう努めて参ります。

会員の皆様方におかれましては、引き続きご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

(昭和49年 教育学部中学校教員養成課程保健体育科卒)



「イギリスのプロのパン職人が技を競う大会で徳島県出身の青悦美代さんが二冠」——2023年6月20日付の徳島新聞で報じられたビッグニュース、目にされた方も多いと思います。青悦さんは徳島大学出身。これはぜひ会報でご紹介を！と、ダービー州の青悦さんのベーカリー「くまさんベークハウス」にメールを送り、寄稿をお願いしました。

日本人としてのルーツを生かした 抹茶パン、英国の大会で二冠に輝く

あおえつ みよ
青悦 美代



私は大学卒業をした後すぐに、鳴門教育大学の修士課程に進みました。そのあと、「イギリスの大学院で学びたい」という夢をあきらめることができず、渡英し、マンチェスター大学大学院の教育学部に留学しました。

マンチェスター大学大学院に留学していた時に知り合った、夫と結婚して、今は、イギリス中部のダービー州に住んでおります。ダービー州はピークディストリクト国立公園のある、緑豊かな山々や丘陵にかこまれた、美しい地域です。18-19世紀にイギリス産業革命が起こった時に重要な役割を果たしたの中心地の一つで、当時建てられた、多くの工場はその歴史的な価値から、世界遺産に登録されています。

私は、今は自宅で、くまさんベークハウス (Kuma-San Bakehouse) という、小さなパン屋をしています。「教育が専門の人がどうしてパン屋をしているの？」って思われる方も多いと思います。パンは最初

「Britain's Best Loaf Award2023」を受賞した
「ブリオッシュ・ジャポネーズ」。抹茶の色合いも美しい



は趣味で始めました。私は夫の仕事の関係で、一時期フランスに住んでいました。2009年の10月に夫の任期が終わって、イギリスに戻ってきて、フランスで食べていたような美味しいパンを売っている店を見つけることができなくて、「じゃあ、試しに私が作ってみよう！」という軽い気持ちでパンを作り始めました。家事の合間に、自宅の家庭用オーブンを使って、本やインターネットで得た情報をもとに、自分でいろいろと作ってみるって感じで、ほぼ独学で、パン作りを学びました。パンが焼き上がった時の香ばしい香りや綺麗に膨らんでオーブンから出てきたときのうれしさなどが、たまらなくて、パン作りの虜になりました。

転機になったのは、2019年、趣味でパンを焼き始めて10年ぐらい経った時に、力試しで応募した、World Bread Award -UK というプロのパン職人の全国大会の菓子パン部門で準優勝を頂いたことです。賞を頂いた後「パンを焼いて欲しい」というご要望をたくさん頂いて、自宅でパン屋を開くことになりました。パン屋といっても、店舗があるわけではなく、会員の方々に前もって予約して頂いて、私の自宅に取りにきて頂くって感じです。毎週買いに来られるお客様がほとんどで、パン屋というよりもむしろパンクラブって感じです。現在は、週に2回、自家製酵母(サワー種)のパン、食パンやメロンパンなどの日本のパンなどを焼いています。焼くパンのメニューは、毎週来られるお客様達が飽きないように、週ごとに変わります。

さて、この度、Britain's Best Loaf 2023というプロのイギリスのパン職人の大会で、Innovation (新商品開発) の分野で受賞し、その後、総合優勝することができました。この賞を頂いたのは、生地には抹茶を練り込んで作った、日本風の菓子パンです。今、イギリス



チェリーとアーモンドクリームのパン



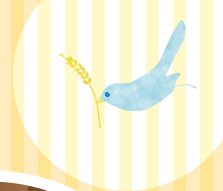
バゲット



ドライチェリーとナッツのパン



自家製酵母サワー種のパン



は日本食が大ブームで、多分その影響もあって、私のパンが審査員達の目に止まったのだと思います。抹茶生地にドライフルーツや柑橘系のピールやホワイトチョコレートを混ぜ込んで作った私の菓子パンは、「ケーキのようなしっとり感と柔らかい食感が最高！」「抹茶の渋みとドライフルーツとホワイトチョコレートの甘味のみ合わせが絶妙！」「上にのったマカロン生地のカリカリとした食感がいいアクセントになっている。」「切ったら、緑茶の綺麗な緑色が出てきて、びっくり！」などの高い評価を頂きました。

私が応募したのは、innovation（新商品開発）の分野です。今までにない、ユニークで、創造性のあるパンを作り出さないといけなかったんです。私の得意分野は、Fusion of Japanese and Western Baking 日本語でいえば、和洋折衷とでもいうのでしょうか。だから、パンに私らしさを出すために、日本らしさを取り入れようと思い、抹茶を使うことにしました。このパン

を作る上で、一番苦勞した点は、抹茶は温度に敏感なことです。温度が高すぎると、緑から茶色に色が変わるんです。それ故、何度も焼いてみて、一番適切な温度と焼く時間を見つけました。大会で優勝した時は、私の日本人としてのアイデンティティーが反映されたパンだったので、その喜びはこの上ないものでした。

パン職人という仕事は、私にとって、第二のキャリアです。パンの魅力にハマって、パンを焼き始め、それこそもう無我夢中で、全力で走ってきました。これからも、私の得意分野である、日本の要素を取り入れた、和洋折衷のパンづくりを続けていきたいと思えます。和の要素を含んだ新製品もどんどん開発していきたいです。

海外で日本人が現地の人たちに混じって仕事をすること、現実問題として、利点と弱点とが両方あります。自分が生まれ育った場所とは言語や文化が違うという観点からは、日本人にとってハンデ（弱点）になることはたくさんあります。そんななかで、「私らしさが活かせる分野は何か？」又は「私が生きてゆく上で武器になるものは何か？」を考えた時、私自身がたどり着いたのは、私の日本人としてのルーツに戻るってことなんです。

日本を離れて強く思うことは、日本の食文化の素晴らしさです。種類や質（味や食感、見た目）何をとっても、すごく手が混んでいて、日本人独特の几帳面さや心遣いが伝わってきます。これからもパン作りを通して、イギリス人の方々に、食べ物に多様性を提供し、日本の食文化にどんどん触れて頂き、日本のことにもっと興味や関心をもって頂けると、日本人の私としてはとても嬉しく思います。

（平成5年 総合科学部総合科学科 文化コース・ピーク1
（人文研究）卒）

私の職場

総合科学部が創立されて早や30年余。
国内外を問わず多方面の職場で活躍されている
涓水会々員の皆様に、職場の状況や特色、体験談など、
その職場ならではのエピソードを語っていただきました。

学習塾

「Baby Kumon」に魅せられて

公文式北佐古教室 指導者 かわの 輝江

ISUIKAIと新しくなった会報誌の表紙、恩師である東南光先生の本「陶鑄」を眺めながら、職場を振り返っています。

私は、佐古駅北口近くで「公文式北佐古教室」を開設し7年目の夏を迎えました。

IT企業に就職し28年を経て、第二の人生に公文の指導者という道を選択しました。前職で社員教育やインストラクター育成などに携わる仕事をしながらも家庭での教育環境に思いをはせることが多々あり、我が子は他人任せで仕事優先だったことを反省しつつ、子どもに関わりたい、一緒に働きたいと思われる人材を育てる一助になりたいという思いからの転職でした。

新規開設で生徒数0からのスタートは不安もあり

ましたが、幸い、立地にもスタッフにも指導者仲間にも恵まれ近隣の方々からの応援もいただき、元号が令和に変わったタイミングで教室仕事一本に絞りました。そうして教室開設から5年目の夏、突然の東先生の訃報。「書」への思いが再燃し、「公文書写」の養成教室へ通い始めました。そこでは小林やよい先生（なんと書研の先輩）が指導者をなさっており、東先生が引き合わせてくださったのだと、ご縁に感謝しました。

さて、KUMONは、世界60を超える国と地域で354万（国内130万）の学習者がいます。教室数は23,700（国内15,400）、徳島県には約140教室あります。算数（数学）、英語、国語の教科学習だけをイメージされる方が多いと思いますが、実は、「公文書写」



歌やリズムに乗せて。五感をフルに使ってことばを学びます



「Baby Kumon」の様子



オリジナルの教材の数々

数英国の教室。
自学自習ができるよう、
優秀なスタッフがチーム
でサポートしています



凜と書に向き合う子どもたち。ペン習字、かきかた、筆ペン、毛筆の4教科を学べます

や「Baby Kumon」もあります。開設当初から、地域柄幼児率が高かったこともあり、必然的に「Baby Kumon」の世界へ足を踏み入れました。

「Baby Kumon」は、0・1・2歳の時期に「ことばのやりとり」(※)により、「親子のきずな」と将来の「自ら学び、考える力の土台」をはぐくむ、親子のためのKUMONです。

※語りかけ、歌いかけ、読み聞かせ、やりとり遊び

親子で「ことばを使ったやりとり」を重ねていくうちに、お互いの存在を強く感じ、親子の絆がはぐくまれていきます。親子の絆が結ばれると、子どもは安心して新しいことでも意欲的に取り組むことができます。私は、「Baby Kumonフラワー」と呼ばれている花びらの①よく見る②広げる③ほめる④待つ⑤続けるという5つの花びらを月に1つピックアップし取り組んでもらうスタイルが好きです。これは、Babyだけに特化したものではなく、人間関係構築(コミュニケーション)の基本だと捉えています。

「Baby Kumon」経験者は、一般教科学習に進んだ



Baby Kumonフラワー

ときの立ち上がりに目を見張るものがあります。歌や読み聞かせによる語彙力(言葉の貯金)が開花して、本が大好き、学ぶことが楽しいを体現してくれます。親子のやりとりを重ねてこれたお母さまは、仕事に復帰なさり多忙なはずなのに、しなやかに穏やかに子育てを楽しまれるようになっていきます。そして、月に一度の「Baby Kumon」タイム(各ご家庭とマンツーマン)は、感動をいただけるとても有り難い時間となっています。親子の絆づくりの貴重な時期に、保護者様以外の第三者の大人として介在させていただくことにやりがいと喜びと感謝の気持ちを忘れず、これからも学び続けたいと存じます。

今秋からは、新しいチャレンジとして、「認知症予防学習療法」の勉強もスタートしたいと思っています。新しいことを始めたいけど、今からでも大丈夫かな?と思うとき、周りに気後れしている私を見た東先生から、「輝江さん、いつからやっていたではなく、いつまでするかが大事なんやで!」とかけていただいた言葉が耳元で聞こえます。さあこれからと気合いを入れてくれます。また、結婚祝いにいただいた「和気藹々 南光書」の額は、我が家のベースとなっています。

子どもの笑顔は保護者さまの笑顔から。そう、保護者さまの笑顔は私の笑顔からです。これからも、明るく・楽しく・元気よくをモットーに「ちょうどの学習」を提供できるように学び続けながら、やりがいのある公文指導者を続けていきたいと存じます。ご興味を湧かれた方は、是非「北佐古教室」にお立ち寄りください。

(平成元年 教育学部小学校教員養成課程卒)

information

●公文式北佐古教室

徳島市北佐古一番町5-13 北佐古ビル1階

TEL 080-2987-1000 メール terue.kawano@gmail.com

教室日 数英国=月、木 書写=水 Baby Kumon=随時

＼数英国／



＼公文書写／



＃北佐古教室



特集

バックステージ

～文化を創る公共施設の舞台裏～

音楽、美術、阿波おどりや人形浄瑠璃などの伝統芸能をはじめ、講座やイベントが毎日のように開催されているあわぎんホール。さまざまな視点の講座やロビーコンサートなど、意欲的な取り組みで注目の徳島県立文学書道館。徳島県の文化の拠点で、そのバックステージを支える人達をご紹介します。

勝敗は戦う前に決まっている

徳島県郷土文化会館 事業課主任 かわぐち つよし
川口 剛

私は修了後、公益財団法人 徳島県文化振興財団の職員に採用され、現在は、あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）で働いている。文化振興財団は、徳島県民の幅広い文化及び学術・教育活動を積極的に支援することにより、新しい県民の文化の創造・発展と福祉の向上及び文化を通じ県内外の人の交流促進に寄与するために設立された団体である。あわぎんホールと県立文学書道館を拠点としながら、日々、県民の文化活動、文化創造に関する事業を行っている。

具体的には「舞台芸術公演事業」「教育普及育成事業」「伝統文化振興事業」を3本柱として、様々な事業を展開している。「舞台芸術公演事業」では、「松竹大歌舞伎公演」「DRUM TAO」など多彩なホール公演事業、「教育普及育成事業」では、県内の教育機関等に芸術家を派遣する「芸術家派遣事業」や阿波人形浄瑠璃で用いる人形を制作する「阿波木偶制作教室」など、地味ではあるものの地域に密着した事業を行っ

ている。そして、「伝統文化振興事業」では、国・県指定の無形民俗文化財をデジタルデータとして保存することで、伝統文化の継承及び普及促進を図る「映像記録事業」などを行っている。

では、私自身が何をしているのかと言うと、あわぎんホールには総務課と事業課の2つの課があり、私は事業課に配属されている。事業課は、先に挙げた3本柱「舞台芸術公演事業」「教育普及育成事業」「伝統文化振興事業」の企画・運営を担っており、8名で年間約12本のホールを使った公演、30施設以上の学校や福祉施設へ芸術家を派遣する事業などを行っている。そのように書くと「イベントを実施する部署だから楽しそう」と思われるかもしれないが、仕事の8割は本番を迎えるまでに終わっており、公演やイベントの本番はおまけなのである。もちろん本番がなければ、仕事をやり切った達成感などは生まれないわけだが、実はそれまでにほぼ勝敗は決まっているのである。

800席の客席が埋まるのか常に不安



満足いただけるか不安になりながらの出迎え



ここまで埋まれば大成功!



チケット好評発売中です!

特に事業を「企画」する。これは簡単なように思えて、実はとても難しいことである。「やりたいこと」があっても、やれるお金はあるのか、人は集まるのか、文化振興財団として実施する意義はあるのか…様々な条件をクリアして、初めて企画として成立するものである。特にお金は重要で、どんなに文化振興上、意義があるものでも、お金がなければ実施は出来ないのである。その時には、例えば文化庁の助成金を獲得し、少しでもその原資に充てるなどの方策を取るわけだが、これまた助成金を獲得するのも一筋縄ではいかない。膨大な提出資料と戦い、獲得後も、実績報告という名の精算書類との格闘が待っている。基本的に文化関係の助成金は赤字の5割を負担するというものが多く、黒字のものは認められない。それはそれでいかななものかと個人的に思うが、そうになっているのだから仕方ない。

そんなこんなを乗り越えて、皆様のもとに事業(イベント)が届けられているということ、少しでも

知っていただけたら、新たな達成感が生まれ、よりよい事業を企画しようという“やる気”も生まれ、好循環となる気がしている。もちろん、公演を見ていただいて「良かったよ」とお声がけいただくだけでも、十分に努力が報われたとは感じるが。我々の最大の使命は、あわぎんホールに足を運んでいただくこと。この一言に尽きるので、ぜひ、一度、あわぎんホール主催公演にお越しください。

(平成16年 総合科学部人間社会学科 国際社会文化研究コース卒)
(平成18年 大学院 人間・自然環境研究科 人間環境専攻修了)



棚には助成金の申請書類などがたくさん



さあ、本番だ!



企画だけでなく、当日にはこんなことも



ガイドとしての仕事

徳島県立文学書道館 職員 ^{わだ ひかる} 和田 輝

するとパッサニヤスは第一に口を開いてほぼ次のようにいったということだ。『さて、諸君、どういふ風にしたら一番気楽に飲めるだろう？ 実は諸君にいつておかなければならんのだが、僕一個としては昨日の酒で本当に大分まいっている、それで多少の休養がほしい。だが、諸君の大多数もみな同じことだろうと思う、諸君も昨日出席されたのだから。それでどういふ風にしたら一番気楽に飲めるか、一つ考えて見て貰いたい。』

…(中略)…

それを聴いてアクメノスの息子のエリュキシマコスも口を出した。

『本当に諸君の提案はもっともだ。だが、僕はまだ君のうちのもう一人はどうか聞いて見たいのだ。君はまだ飲む気があるかい、アガトン。』
『すっかり駄目だ、僕も意気銷沈だよ、』と彼もいったのだった。

…(中略)…

一同は、今日の集りを無暗に飲む会にしないで、ただもう気の向くままに飲もうということに同意した。

プラトン『饗宴』(久保勉訳、岩波書店、1952年)
p52-53

これはプラトンの『饗宴』の一場面です。意外だと思われた方もおられるのではないのでしょうか。時は紀元前5世紀、ギリシャのアテナイ。悲劇詩人であるアガトンがコンクールで優勝し、その祝宴に呼ばれた人々が今日は皆でどう飲むか、と相談している場面です。哲学者のソクラテスもその席に呼ばれていました。

著者のプラトン、そして登場するソクラテスといえば西洋哲学の源流として、哲学史のはじめに紹介される哲学者です。私は高校生で世界史を履修しました。教科書には彼らの峻厳な顔をした石像の写真があって、彼らだけでなく、哲学そのものが難しく取っ付きにくいものなのだろうな、と感じたものです。さらに遡ると小学生の頃、地元の図書館にあった大人用の閲覧室の自分のはるか頭上には、分厚い哲学の全集が書棚を埋め尽くしていて、「プラトン」や「アリストテレス」といった文字が並んでいました。厳しい顔の石像、重厚な哲学全集、そういったイメージから彼らの著作は近寄りたいたいものだと思っていました。

しかし、冒頭の場面はどうでしょうか。昨日から飲み会が続いているから参っている、今日は無理せず飲もうよ、と相談するという身近でユーモラスな場面です。大学時代、「西洋哲学の古典」というイメージで『饗宴』を読み始めて身構えたものの、この場面でクスツとして、彼らに親しみを感じたのを覚えています。

私は現在、徳島県立文学書道館で仕事をしています。博物館や美術館での仕事は、とっつきにくい、近寄りたいたいと思われているものについて、入りやすい入口を紹介する登山のガイドの仕事のようなものだと思っています。私がプラトンを近寄りたたくて難しそうだと感じていたように、一般に文学や書道、あるいは美術などはそれ自体難しそう、敷居の高いものというイメージが先行しがちです。しかし、どんな分野や作品でも身近に感じられる切り口や、見方を見つけることが出来ますし、それ自身の魅力を伝えるために何よりも重要なことだと思っています。



今年度、担当した特別展「寂聴 美のコレクション」



講座「芸術・文化を語る」藍銅ツバメさんの回。
対談形式で藍銅さんとお話させていただきました。
(左が和田、右が藍銅ツバメさん)

展覧会や各種の講座の企画はその中心的な仕事です。特に今年度は、4月から開催された、徳島県出身の作家・瀬戸内寂聴さんが所有していた美術品とそれに関わる小説や随筆を紹介した展覧会「寂聴 美のコレクション」を担当しました。作家自身が身の回りに置いていたものを実物で見ていただくことで、文章からだけでなく、新たな側面から寂聴さんを感じてもらえればと企画したものです。また、6月には徳島で学生時代を過ごされた作家・藍銅ツバメさん(徳島大学総合科学部卒業)をお呼びする講座を企画しました。県内出身の作家のお話ということで、作家はもちろん、文学そのものを親しみやすいものと感じてもらえる機会になれば、という思いもありました。身近に感じられる切り口。そのことに気づかされた経験のひとつが、冒頭の祝宴の場面を読んだ時でした。

『饗宴』はその後、祝宴の参加者たちが「愛(エロス)」について演説し、ソクラテスの主導で討議がはじまります。この部分は確かに哲学的です。難解に感じる部分かもしれません。しかし、全体として古代ギリシャ人たちの生き生きとした会話とともに進行していきます。ソクラテスの弟子が酔っ払って祝宴に乱入してきたりもします。ユーモラスな雰囲気は失われず続いていくのです。

作品の良さ、作家の良さを他の人にどうやって知ってもらうか。やはりガイドが山の隅々まで、より魅力的な入口を探す日々が必要なのだと思います。

(平成28年 総合科学部人間文化学科 国際文化コース卒)



原爆朗読劇「夏の雲は忘れない」。
趣味を生かし朗読劇のピアノ伴奏を担当しました。



読者プレゼント商品

information

●徳島県立文学書道館

<http://www.bungakushodo.jp>

住 所 徳島市中前川町2丁目22-1

電 話 088-625-7485

開館時間 9時30分～17時

休 館 日 月曜日

(月曜日が祝日の場合はその翌日)

年末年始(12/28～1/4)

料 金 入館は無料。

常設展観覧料は一般310円

高校・大学生200円

小・中学生100円



インターネット^{しへき}嗜癖に対する生理心理学的アプローチ

徳島大学大学院社会産業理工学研究部 准教授 津村 秀樹
社会総合科学域人間科学系心理学分野

私は現在、インターネット^{しへき}嗜癖 (internet addiction) を対象とした臨床心理学研究に取り組んでいます。インターネット嗜癖はインターネットの普及に伴って認められるようになった比較的新しい嗜癖であり、インターネットの使用やインターネットを使用したい渴望をコントロールできず、結果として職業、学業、家庭等で役割を果たせなくなります。依存症、行動嗜癖では生理的ストレス反応が鈍化していることが多くの研究で示されています。たとえば、アルコール (Ehrenreich et al., 1997)、ニコチン (Back et al., 2008)、ヘロイン (Gerra et al., 2014) に対する依存症でコルチゾール反応が鈍化していることが報告されています。物質に対する依存症だけでなく、ギャンブル行動症 (Paris et al., 2010) 等の行動嗜癖でも同様にコルチゾール反応が鈍化していることが報告されています。私たちの研究では、インターネット嗜癖の生理的ストレス反応の特徴を調べるために、唾液中コルチゾール、唾液中 α -アミラーゼ、血圧のストレス負荷時の変化を測定しました。

コルチゾールは副腎皮質から分泌されるステロイドホルモンであり、ストレス時に分泌量が増加し、糖新生や抗炎症作用等によって生体のストレス耐性を高めます。血液中濃度と唾液中濃度の相関が高いことから、心理学では唾液中のコルチゾール濃度がストレスの生理的指標としてよく用いられます。血圧や唾液中 α -アミラーゼ活性も交感神経の興奮により値が上昇することから、交感神経系のストレスの指標としてよく用いられています。

実験では76名の実験参加者をインターネット嗜癖群と非インターネット嗜癖群に群分けしました。この群分けには、インターネット嗜癖症状の程度を測定する自己評価式の質問紙である日本語版Internet Addiction Test (Young, 1998) を使用しました。実験参加者には、心理社会的ストレス負荷課題を受けてもらい、その前後で唾液の採取と血圧測定を行

い、感情的ストレス反応を測定する質問紙に回答してもらいました。その結果、非インターネット嗜癖群ではストレス負荷後にコルチゾール濃度が増加していましたが、インターネット嗜癖群では、コルチゾール濃度は変化していませんでした (図)。唾液中 α -アミラーゼと血圧はインターネット嗜癖群、非インターネット嗜癖群ともに増加しており、群間で増加量に差は見られませんでした。研究の結果から、インターネット嗜癖ではとくにコルチゾールのストレス反応が鈍化していることが分かりました。

コルチゾールのストレス反応の鈍化は依存症、行動嗜癖で共通に認められる状態です。本研究の結果から、コルチゾールのストレス反応に関しては、インターネットに対する嗜癖もアルコールやニコチン等に対する依存症と同様の特徴を示すことが分かりました。インターネット嗜癖にはストレスに対する脆弱性があり、ストレスが高まったときにインターネット使用がコントロールできなくなり、過剰に使用してしまいます。コルチゾールのストレス反応が鈍化していると、コルチゾールがストレス耐性を高める効果が不十分になると想定されますので、コルチゾール反応の鈍化は、インターネット嗜癖のストレス脆弱性と関係している可能性があります。

インターネット嗜癖の予防や心理療法、生物学的治療はまだ開発途上にあります。今後もインターネット嗜癖の基礎研究の知見を積み重ねながら、効果的な心理療法等の開発につなげられるように尽力したいと思います。

なお、本研究について詳しくお知りになりたい方は、Tsumura H, Fukuda M, Kanda H. Blunted cortisol and normal sympathetic nervous system responses to an acute psychosocial stressor in internet addiction. *Heliyon*, 8 (12), e12142 (2022) をご参照ください。

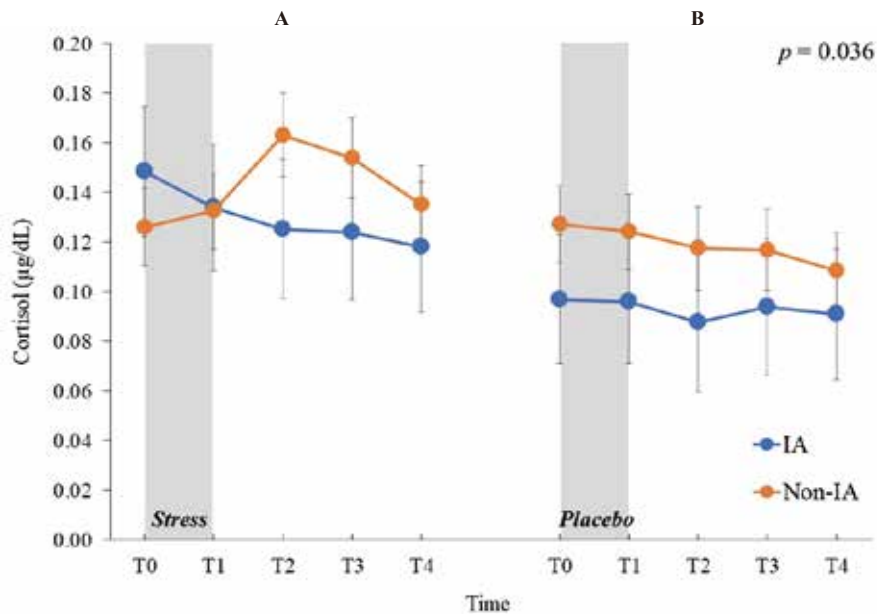


図 (A) インターネット嗜癖群 (IA) と非インターネット嗜癖群 (Non-IA) のストレス負荷時のコルチゾール濃度の変化。
 (B) ストレス負荷のない安静時のコルチゾール濃度の変化。(Tsumura et al., 2022より)

常三島 今昔 3

プレイボール!



事務職員と教官が一緒になっての野球の試合です。グラウンドは当時の美術教室の前あたり。のどかな光景ですね。「女子学生からの黄色い声援に、気合いを入れて打席にたったら三振で空振り」と、ある先生の談話。

(学芸学部 撮影年不詳 1949~1965年)



総科を

～総合科学部の



たずねて

“いま”をご紹介します～

総合科学部創立150周年記念応援事業発足します！

総合科学部 副学部長 やべたくや
総合科学部地域創生コース 教授 **矢部 拓也**
(2024年度からは地域デザインコースになります)

気が付けば徳島在住20年越え

皆さん、初めまして。徳島大学総合科学部教授(地域社会学専攻)の矢部拓也です。この4月より、総合科学部の地域連携担当の副学部長に就任しました。東京出身の私ですが、転勤族で、兵庫県、長野県と転々しており、30歳の時に徳島大学に赴任して20年、今や徳島県での生活が一番長くなりました。

まちづくり&中心市街地活性化がテーマ

私の研究テーマは、まちづくり、中心市街地の活性化です。大学院時代は、中心市街地活性化の成功事例のひとつである滋賀県長浜市の第三セクター「黒壁」の研究をしていました。参与観察という手法で、実際に毎月長浜市に1週間程度滞在し、まちづくり会社である黒壁と連携しているNPO法人まちづくり役場の仕事を手伝い、実際のまちづくり活動に関わりながら大学院生活を送っていました。最近長浜市に行くことが少なくなってしまいました。が、今でもこのNPOの理事を続けています。

実践的まちづくり研究&公民連携

徳島大学赴任後は、NPO法人「新町川を守る会」に関わりながら吉野川フェスティバルのお手伝いを学生と一緒にしたり、鳴門市の「地域密着型サービス及び地域包括支援センター運営委員会」や「鳴門ビジネスプランコンテスト」の審査員、徳島市の「徳島市地域自治協働アドバイザー」を務めています。最近吉野川市での活動が多く、「吉野川市中小企業等振興協議会」の会長や「市民提案型まちづくり推進事業の審査委員会」の審査委員をして、公民連携のまちづくりも進めています。残念ながら他の自治体での仕事は少ないのですが、徳島市、鳴門市、吉野川市在住の涓水会会員の皆様、是非、ご協力をお願いします。

2024年10月19日(土)総合科学部創立150周年記念式典開催予定

皆さんもご存じのように、このたび総合科学部は創立150周年を迎えます。先日の高橋学部長を委員長とする創立150周年記念実行委員会で、2024年10月19日(土)に開催することが決定されました。詳細はまた追って連絡がありますので楽しみにしてください。

総合科学部創立150周年記念応援事業とは？

私自身、これまでまちづくりの実践的研究をしてきたので、総合科学部創立150周年記念に際して、「地域貢献を担い徳島を豊かにする総合科学部」というブランディングを明確にしようと思い、「総合科学部創立150周年記念応援事業」というものを立ち上げようと考えています。総合科学部の教員が関わっているまちづくり活動や地域貢献活動は実は多くあるのですがあまり知られていません。そこで、総合科学部創立150周年記念事業としてそれをHPで公開してゆこうと思っています。また、総合科学部創立150周年記念に向けて寄付をお願いしているのですが、私がお願いする方々は日常的に地域づくりに関わっている方が大半なので、彼らから単に寄付をもらうのではなく、彼らが個人や団体、企業で行っている活動の一つを「総合科学部創立150周年記念事業」という冠を掲げてもらい、私も応援しながら、それらの活動が一層発展すること＝徳島が楽しくなってゆくことというコンセプトで総合科学部の地域貢献活動として行こうと考えています。第1号として、本会報の前号51号の「私の職場」コーナーでも紹介されたOGの西谷さんが経営するトーコーヒーで、「総合科学部創立150周年記念ブレンド」を作ってもらい、売り上げの一部を創立150周年記念事業に寄付

する企画を立ち上げています。今後、創立150事業を集めて、できれば、それらが一堂に集まる150人会議などができたらなと考えています。

最後に

最近サイクルツーリズムの実践研究をしています。写真は2023年8月16日に開催された第2回ミニペロードベンチャーツーリズムサミットでの善入寺島サイクリングの時の写真です。私は車には乗らず日々の移動は自転車移動を実践しております。写真のようなサイクルジャージを着て、四国1周しているような雰囲気で行き交っていますので、見かけた、気軽にお声がけください。また、以下のQRコードから2024年度入学生から始まる地域デザインコースの説明動画を観ることができます。私も出ていますので、是非、ご覧ください。

地域デザインコースの
説明動画はコチラ



2023年8月16日に開催したミニペロードベンチャーツーリズムサミットで善入寺島サイクリングした時の写真。このサイクルジャージを着て、地域デザインコースの説明もしていますので、是非QRコードを読み込んで、ご覧ください。

山本哲也准教授と内海千種教授らによる作品が、「第2回デジタルとくしま大賞 NTTドコモ賞」を受賞しました。受賞した作品「AR阿波踊り-阿波踊りの魅力を最大化する拡張現実技術-」をはじめ、取り組まれている研究についてご寄稿いただきました。

ハートに光をつけて -光演出技術による心の調整-

徳島大学大学院社会産業理工学研究部 准教授

やまもと とつ や
山本 哲也



街を彩る美しいイルミネーションや、投影された壮大なプロジェクションマッピングに、目を奪われたことのある人は少なくないと思います。これらはいずれも、光を活用した環境刺激によって、私たちの心が動かされたと感じることができます。私たちのグループでは、こうした光を活用することで、心のつらさを和らげたり、楽しさを増大させたりする技術の開発を試みております。以下に、具体例をお示しいたします。

心の動きと共に視聴覚空間が移り変わる 「空間マッピング・バイオフィードバック」

古くから臨床心理学領域では、カウンセリングの

ための面接技術が蓄積されてきましたが、面接が行われる部屋（面接室）自体の研究はあまりなされておられません。一方で、もしその部屋を、クライアントさんが安心して話せたり、心地良く過ごせるような空間として構築できたとしたら、それはクライアントさんにとって極めて有用だと言えます。

そこで私たちは、特殊ミラーとプロジェクターを活用し、ほぼ全方位の空間に光を当てられる環境を構築いたしました。そして、ストレス指標の一つである皮膚電位を指標としながら、人々が落ち着けば落ち着くほど、目の前に広がる室内の様子が変わっていき、流れる音楽が心地良くなっていく、というシステムを開発いたしました。利用者にとって

は、自分の心身の状態によって視聴覚空間が変わるという体験をすることで、早く心を落ち着けることができたり、本人にとって効果的な落ち着く方法に気づくことができます。これは行動医学の分野で効果が実証されている「バイオフィードバック」を応用したものであり、心身をセルフコントロールすることの効果や、その技術の向上に繋がることが期待されます。



図3 心身の落ち着きと共に変わりゆく視聴覚空間



図1 特殊ミラーに光を当てて、部屋中に光を投影

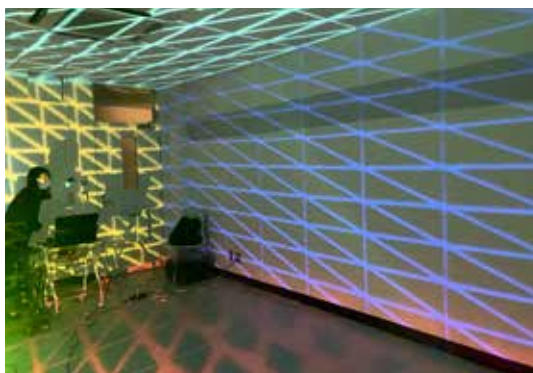


図2 映像が歪みなく投影されるように、室内空間に合わせて光補正

出演者の魅力と観覧者のワクワク、全てを大きくする「AR阿波踊り」

ステージでのパフォーマンスは、スポットライトなどの照明によってしばしば演出されています。私たちはこうした演出手法をさらに柔軟にするために、バーチャルアイドルのライブで用いられている技術の応用を試みました。すなわち、透過型スクリーンに演出用視覚刺激を投映することで、パフォーマンスの演出手法を拡張しようと考えたのです。しかしながら、バーチャルアイドルのライブの演出はとてもしリアルで演出効果が高いものの、スクリーンの裏から投映することが一般的であるため、人間のパフォーマンスに用いた際には、人間自体が影になってしまっ演出効果が阻まれるという問題がありました。そこで私たちは、プロジェクターを組み合わせ、角度や投映範囲を調整する手法を開発しました。これによって、パフォーマンスに対する極めて柔軟な演出効果に加えて、従来は困難だった人間とバーチャルキャラクターとの共演を可能にいたしました。本手法は、阿波踊りに限らず、業界の枠を越えて多様なイベントに大きく彩りを与えることができるでしょう。

図4 スクリーンの外から降っているように見える桜吹雪の中で、共演するバーチャルアイドルと踊り手



パターン認知の心理をめぐって

皮膚感覚における神経活動

イラスト:尾田理左氏

 はま だ じ ろう
 徳島大学名誉教授 濱田 治良


生物物理学者であり聴覚機構の研究で1961年ノーベル生理学医学賞を受賞したG. v. ベケシーは、1959年に図1 aの皮膚感覚の実験で掌^{てのひら}に1つ又は2つの等しい圧刺激を与えました。すると1点刺激の場合は灰色のような圧感覚が得られましたが、2つの刺激の間隔を1.5から2.5cmにすると1つのとても強い感覚となりました。しかし間隔を3.0cmにすると今度は2つの刺激として感じましたが、それらは1点刺激の時よりはるかに弱いものでした。呈示間隔の違いによって、等しい圧刺激に対して異なる圧感覚が得られるのです。彼はこの現象を図1 bで矛盾なく説明しました。すなわち1点刺激を与えるとメキシカンハット状の神経活動が生じ、(b)の灰色の感覚(+:山)とその周囲に抑制(-:谷)が発生すると仮定しました。次に2つの刺激の間隔が1.5から2.5cmの場合は、感覚(山)同士が重なり、かつ抑制(谷)同士が重なり合い点線のように高く深い神経活動となって灰色の1つの強い感覚になります。しかし間隔を3.0cmにして2つの刺激を遠ざけると、感覚(山)と抑制(谷)が相殺し合いそれらを合成すると灰色の2つの頂点が生じるのですが、その高さは1点刺激の場合より低いのです。

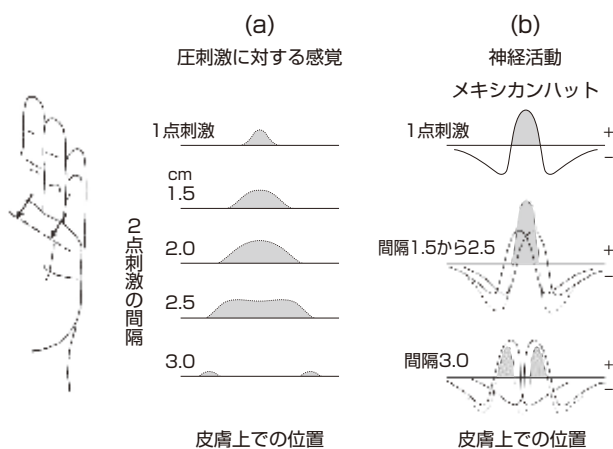


図1 ベケシーによる圧感覚の実験と理論

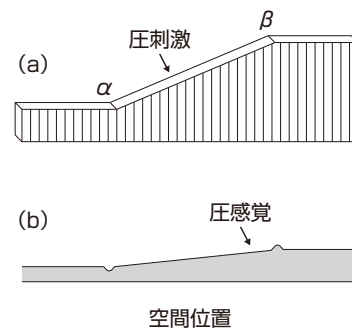


図2 傾斜をもつ圧刺激に対する圧感覚

一方、彼は多数の正方形の圧刺激を1列に、かつ密に並べて、図2 aのように左端から a までは一律に弱くて a から β までは徐々に強まり β から右端までは一律に強い傾斜状の圧刺激を腕下部の内側に当てました。すると圧感覚は(b)のようになり刺激強度の勾配が変化している場所に凹と凸の突起が現れ、角が強調されたのです。彼はこの現象を上メキシカンハット状の神経活動を使って次のように説明しました。すなわち個々の刺激点における感覚の強さは、図1 bと同様に、その周りの感覚を加算し、かつそれを囲む広い抑制をすべて差し引いたものとし、ここで感覚と抑制の強さは双方とも刺激が増すと比例的に高まるとし、各刺激点にメキシカンハットを貼り付けました。すると図2 aで刺激強度の勾配が変化している部位に(b)のような凹と凸の突起が現れるのです。これは(a)において a の右側から左側に強い抑制が掛かり、かつ β の左側から右側に弱い抑制しか掛からないから起こるのです。図2の皮膚感覚での角 a と β に現れる凹と凸の突起は明るさ感覚での輪郭線に相当するのです。彼はその他の実験と理論にもとづいて感覚と抑制の神経活動が皮膚感覚と明るさ感覚に共通することを明らかにしました。

(昭和46年 教育学部小学校課程心理学教室卒)

輝く 新星

第9回
渭水会
会長賞

平成26年度に創設された「渭水会会長賞」。これは、研究及び学生としての活動全般において優れた学生に対して贈られるものです。第4回からは、対象を院生にも広げ、学生3名・院生1名に贈呈しています。

令和5年3月23日(木)、総合科学部1号館第1会議室において、4年ぶりとなる表彰式が行われました。

令和4年度(第9回)渭水会会長賞の受賞者は
眞島 凌さん(大学院創成科学研究科博士前期課程臨床心理学専攻)
原 桜子さん(総合科学部 地域創生コース)
小嶋 普大さん(総合科学部 国際教養コース)
山内 芙優さん(総合科学部 心身健康コース) の4人です。



左から、石井会長、眞島さん、原さん、小嶋さん、
山内さん、内海理事長

6年間の大学生活と私の変化



ましま りょう
眞島 凌

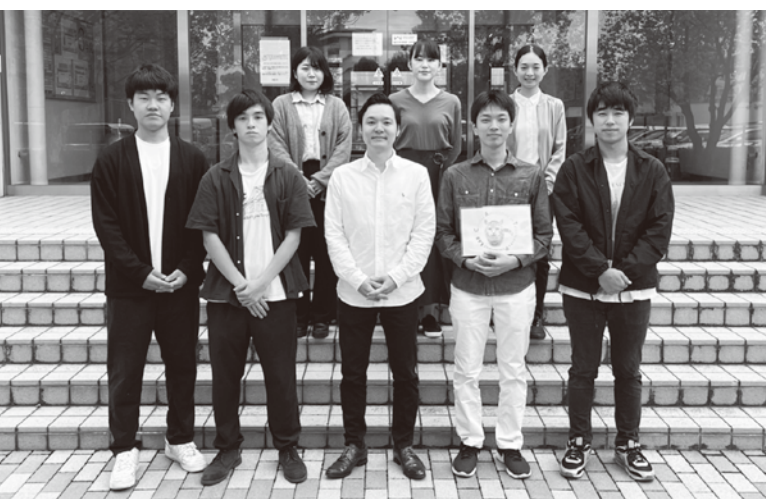
この度は渭水会会長賞という歴史ある名誉な賞をいただくことができ、大変光栄です。学生生活の間に携わってきた先生方や友人、家族の支えがあり、このような賞を頂くことができました。心より感謝申し上げます。

私は学部生の期間とあわせ、6年間、徳島大学で様々なことを学びました。学部生の頃は総合科学部社会総合科学科心身健康コースに所属しており、心理学の基礎的な勉強に加え、歴史学やメディア情報学、語学等について学ぶことができました。当時は見聞を広げるため、多くの学問分野に興味を持ち、講義を受けていました。そして、創成科学研究科臨床

心理学専攻に進学後、私は臨床心理について学ぶことの大変さを、強く感じる日々が始まりました。その中で、特に大きく2つのことで苦労をしました。

1つ目はこれまでの授業形態とは大きく異なることでした。大学院での授業は、学生が意見を述べることや、発表をすることが学部生の頃と比べて多く、常に自分の考えを持つことが求められている状態でした。最初の頃は慣れず、拙い意見を出してしまうこともありました。しかし、それに対して先生方は、否定することはなく、私の意見をわかりやすく解釈して返してくださいました。そのことによって、自身の考えが深まり、段々と自信をもって意見を伝えることができるようになりました。

2つ目は他者の視点に立つことでした。臨床心理学専攻では、専門の資格を取得するために実習を受ける必要がありました。私は実習において、支援対象の方とどのように向き合うと良いか、悩むことが多かったです。その時に、様々な先生方から教えていただいたのは、他者の視点に立った理解をすることの大切さでした。支援対象の方がどのような生活をしており、これまでの人生を踏まえたうえで、何故、悩みを抱えているか考えるように教えていただきましたが、これらは簡単にできることではありませんでした。私自身、物事を先行して考えてしまう傾向があったため、支援対象者の方の視点に立った



ゼミの様子

理解ができず、行き詰まることもありました。そのような場合はいつも、同期が話を聞いてくれたり、先生方が相談に乗ってくださったりしたため、自分の傾向と対応方法について整理することができました。大学院修了後も、他者の視点に立った理解が難しい時はありますが、大学院で得たことを活かし、研鑽を積んでいきたいと思っています。

現在は自身の希望していた、子どもを対象とした福祉に関する仕事に携わっています。主に、子ども



最近の休日

の抱えている悩みについて考え、家族全体でどのようなサポートが必要であるか、考える仕事です。それぞれの子どもや家族にあった支



院生研究室の皆で食べたケーキ

援方法について考えていますが、時には様々な理由で家族からの理解が得られない場合があります。そのような時には大学院で学んだことを活かし、一人ひとりと向き合うことができる関わりを心掛けています。今後も大学院で学んだことを振り返りつつ、成長ができるように日々精進して参りたいと思います。今後も徳島大学が素晴らしい発展を遂げていきますことを心よりお祈り申し上げます。

(令和5年 大学院 創成科学研究科 臨床心理学専攻修了)

社会人に生きる力



はら さくらこ
原 桜子

徳島大学を卒業し、半年が経ちました。私は総合科学部社会総合科学科地域創生コースに所属していました。一般教養の授業で受けたGIS(地理情報システム)に興味を持ち、3年のゼミ選択では空間情報科学研究室を選択しました。卒業研究では徳島市の歩行空間のバリアフリー化の現状や課題について研究し、それらを踏まえた上で整備優先度を提案しました。

卒業研究は限られた時間の中でテーマを考え、研究をし、データや考えをまとめ文章しなければなりません。調査を進める中でどう分析すれば良いか研究に行き詰まったときは積極的に先生に質問をしました。研究をより良いものにするために自ら市役所の方にアポを取りヒアリングを行いました。いつまでに現地調査を行い、論文を完成させるかまでスケジュールを立てることで自分のやるべきことが明確になり、余裕を持って卒業論文を完成させることができました。このような主体性、計画性はもちろん

大切ですが、周囲とコミュニケーションをとり協力することが卒業論文を完成させる中で私は最も大切だと感じました。毎週のゼミで他のゼミ生と意見やアドバイスを出し合ったり、発表前は誤字脱字がないかチェックをしてくれました。研究は行き詰まる



お世話になった塚本ゼミの皆様



思い出のある1号館の前で

ことも多くしんどい時期もありましたが、励まし合う中で乗り切ることができました。

私は徳島大学で過ごした4年間で勉学、部活動等を通してたくさんの貴重な経験やかけがえのない仲間にとく

さん出会うことができました。その中でも卒業研究を通して得た「主体的に行動する力」、「計画性」、「周囲と協力する力」は今の社会人としての生活にも活きていると強く感じます。私は現在県外のエンタメ企業で企画開発職をしています。自ら考え発言し、締め切りを確認した上で計画性を持って業務に取り組むことが大切だと日々感じています。また仕事は1人で完結するものではなく周囲との協力が欠かせません。お互いに意見をぶつけ合ったり時には励ましあったりする中でより良い商品が生まれるのだと

思います。私も大学入学時は将来の夢が決まっておらず漠然としたまま大学生活を送っていました。様々な経験をしたり多くの人と接する中で自分は何が好きなのか、人よりちょっと得意なことは何かを知り、自分のやりたいことを見つけることができました。将来の夢のために大学で専門的なことを学ぶのももちろん大切だと思いますが、大学は自分の夢を見つける場所でもあると思います。大学生活でしかない経験や出会えない人はたくさんいます。その一つ一つを大切に、後悔のない大学生活を在学生の方々には送っていただきたいです。

最後になりますが、この度、渭水会会長賞をいただくことができ、大変光栄に思っています。ご指導いただいた塚本章宏教授をはじめ、大学生活を支えてくださった教職員の皆様、家族、友人に心より感謝申し上げます。そして、徳島大学のさらなる発展をお祈りしています。

(令和5年 総合科学部社会総合科学科 地域創生コース卒)

計画的偶発性



おしま たかひろ
小嶋 誉大

「計画的偶発性」という言葉をご存知でしょうか。これは個人のキャリアは偶然の出来事の積み重ねによって決定されるという前提のもと、その偶然をチャンスと捉えて、自分のキャリアを良くしていくという考え方です。スタンフォード大学の心理学者であるジョン・D・クランボルツ教授によって提唱されました。私は就活生時代に、ある企業の人事の方からこの言葉を教えてもらい感銘を受けました。また自分の行動原理と当てはまっていたことから、それ以降自分を表す言葉として、社会人となった今でも大切にしています。

振り返ると私の大学生活はこの言葉を実践してきた日々だったと思います。徳島大学に入学し、自分がこれまで経験のないことをしたいと思い大学祭実行委員会に入ってステージの司会やオンラインの学祭を企画したり、教員免許を取得し多くの授業を履修し教育実習をしたり、就職活動では積極的にインターンや面接に挑戦してきました。これらの活動には共

通して「偶然の出会い」を求める思いがありました。

その際たる例が4年次での Rund 大学への留学です。もともと私は2年次で留学に行く予定でしたが、コロナウイルスの蔓延によって渡航することができませんでした。しかし、2年の月日が経ち徐々



研究室の皆様と

に収束の兆しが見えて渡航することができるようになりました。そして学務係の小林さん、ゼミの担当教諭の中島先生、教職課程担当の坂田先生と中上先生、家族の支えがあり、無事留学することができました。留学先ではたくさんの「偶然の出会い」がありました。通学時のバスで私から話しかけて、スウェーデン語・日本語を教え合う仲になった同じくルンド大学の学生や、授業で初めて知ったスウェーデンの音楽や文化などすべてが強烈なインパクトを持っていました。ルンド大学で出会った人々は私に沢山のことを教えてくれました。スウェーデン人の友人とご飯に行った際に日本の「55年体制」について私に質問してきたときは本当に驚きましたし、海外の政治事情にまで意識が向かせる教育に感銘を受けました。加えて留学生ばかりが集まる授業でそれぞれの国の国民性について話し合い、違うところを発表する授業ではわれわれ日本人が抱かれている印象や、日本人がヨーロッパの人に対して過剰に同じように見ていることにも気が付くことができ、俯瞰的な視点を持つようになりました。

留学に行ったことで語学力や度胸は成長させることができましたと思います。しかしそれよりも「偶然の出会い」を求めて行動し、「偶然の出会い」を自分の血肉とできたことが何よりの収穫だったと思います。今後の社会人生活では目の前のことにいっぱいいっぱいになったり、自分の至らなさに辛くなることも



大学祭実行委員会のメンバーと



ルンド大学の友人と

あると思います。しかし大学時代の経験を思い出し、過去は良かったなと振り返るだけでなく、未来に目を向け進んでいきたいと思っています。

最後となりましたが、このたびは涓水会会長賞という名誉ある賞をいただき、誠に光栄に思っております。ご指導またはご支援して下さった先生方や職員の皆様、家族や友人に心より感謝申し上げます。徳島大学の今後益々の発展をお祈りしております。

(令和5年 総合科学部社会総合科学科 国際教養コース卒)

★ 苦手なことへの挑戦



やまうち ふゆ
山内 芙優

私は高校3年生の時、何に興味があるのか、やりたいことは何なのかがわからず、進路に悩んでいました。その中で、徳島大学には総合科学部という幅広い分野を学べる学部があると知りました。そこで、いろいろなことを学び、興味を持ったことにどんどん挑戦し、自分のやりたいことを見つけていこうと思い、徳島大学総合科学部に入学することを決めました。

入学後、まずはいろいろな人との繋がりを持つためにも部活動・サークルに所属したいと思い、積極的に新入生歓迎会に参加してみました。その中から、ランニングサークルとバスケットボールやバレー

ボールなどの屋内スポーツを行うサークルの2つのサークルに所属することにしました。ランニングサークルでは女子部員が少ない中でなんとか人数を集めて大学での駅伝大会に出場することができ、初出場で5位という結果を残すことができました。しかし、ランニングやバスケットボールはこれまで自分がやってきた経験のあるもので、大学生活では何か違うことにも挑戦してみたいと思うようになりました。その時、台湾への短期留学ができることを知りました。これまで一度も海外に行ったことがなく、外国の言語や文化にもあまり興味を持っていません



スポーツ医学研究室の皆様と

でしたが、大学生活の中で何か初めてのことに挑戦したい、自分の知らない世界を見てみたいという気持ちで1年次の春に台湾へ短期留学することを決めました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により、短期留学は中止となってしまいました。ただ、新しいことにあまり挑戦してこなかった私にとって挑戦しようという決断ができたことは小さな一歩を踏み出せたと少し自信を持てるようになりました。

3年次になると、就職活動を始め、自分の強み・弱みを考える機会が多くなりました。私は、弱みはたくさん挙げることができるが強みをあまり挙げることができないことに気が付きました。その弱みの1つに「自分の意見を述べるのが苦手」ということがあります。自分の意見を述べるということは就職活動をする上でも社会人としても大切なことだと思い、社会に出るまでに改善したいと思いました。そこで、グループワークのあるインターンシップに積極的に参加するようになり、ビジネスコンテストに参加したりしてグループの中で自分の意見を述べるという経験をたくさん積むようにしました。さらに、自分自身の就職活動終了後には後輩の就職活動をサポートするボランティア団体に所属し、面談を通して悩みを聞いたり自分の経験を話したりしていろいろな人と上手にコミュニケーションが取れるように尽力しました。こういった活動は自分の苦手分野のことだったためなかなか上手いかないことも多く、なんでこんなことをしているんだろうと思ってしまうこともありました。しかし、今思い返すと苦手から逃げずに挑戦してよかったと思っています。現在、社会人として仕事をしていく中で、自分のやりたいことだけでなく苦手なこともやらなければ

ならないことがあります。その時に、大学生活での経験を思い出して「苦手だけど頑張ってみよう」と思えるからです。今後も、自分の好きなこと、やりたいことだけでなく、苦手なことにもどんどん挑戦し、成長していきたいと思っています。

最後になりましたが、この度はこのような素晴らしい賞をいただくことができ、大変光栄に思っています。私がこのような賞をいただくことができたのも多くの方の支えがあつてのことだと思えます。ご指導してくださった教職員の皆様、近くで支えてくれた友人、家族に心より感謝申し上げます。そして、徳島大学の今後益々の発展をお祈り申し上げます。

(令和5年 総合科学部社会総合科学科 心身健康コース卒)



ランニングサークルで出場したりレーマラソン

徳島大学総合科学部渇水会会長賞表彰要項(改定)

(目的)

第1条 研究活動及び学生としての活動全般について優れた者を表彰する。

(表彰人数)

第2条 学部生3名、博士前期課程(修士課程)院生1名とする。ただし、博士後期課程院生においても特に優秀と認められた場合は、1名を表彰人数に追加することができる。

(表彰者の選考)

第3条 学部生は4年次前期終了、博士前期課程(修士課程)院生及び博士後期課程院生は修了・退学時の前期終了までの研究活動・社会活動・成績等に基づいて行う。

第4条 1 学部生及び博士前期課程(修士課程)院生においては、次の基準に該当する者とする。

- (1)研究活動・社会活動等で優れた業績を有する者
- (2)GPA上位者

2 博士後期課程院生においては、原則として全国的な表彰を受けた者とする。

(表彰の決定)

第5条 表彰の決定は、学部長が招集する選考委員会で協議し、渇水会会長に推薦し、決定する。

(表彰の時期等)

第6条 表彰は、学部生においては4年次後期、院生においては修了・退学時の後期に渇水会会長が行う。
副賞として1名につき5万円を給する。

(要項の改廃)

第7条 この要項の改廃は、総会の議によって行うものとする。

附 記

- (1)平成29年5月27日(土)の総会で決定し、平成29年度より実施する。
- (2)令和2年5月30日(土)の理事会で決定し、令和2年度より実施する。
- (3)令和5年6月3日(土)の総会で決定し、令和5年度より実施する。



|エ|ッ|セ|イ|

必然の出会い



にし やま しん じ
西 山 伸 二

初めての校長として着任したのは、生徒数560名の藍住中学校。長年勤めてきた小松島中学校よりも人数が多く、任地も初めての板野郡で知っている方はほとんどいなかった。唯一の縁といえば、孫が住んでいるまちということであり、少しでもいいまちにできるようにすることが使命なのだと言いに聞かせた。一晩思い悩んだが、剣道では立ち会いが全てと言われていたのと同じと思い、4月1日の職員会での学校長所信表明に1年間の全てをかける思いで「藍志チャレンジプロジェクト」と題し、やりたいことの全てを思い切って打ち出した。

町の住民の6割が転入者であることから、「多様性」をキーワードに学校経営に取り組むこととし、「ポジティブな行動支援」の視点から校内生徒指導要項の見直し、男女共同参画推進委員会・校則検討委員会・コミュニティ・スクール準備委員会を立ち上げ、土台となる体制づくりに取り組んだ。教職員からは、「もっと改革のスピードを緩めてください」という声もあったが、自分の在任期間を考えると今しかないと考え、協力をお願いした。

2年目には、鳴門教育大学教職大学院と連携し、生徒の主体性を育むことを目的として、7つであった生徒会専門委員会をSDGsの視点から9つに再構築した。また、「わくわく活動」と称して各委員会が地域のために、これからの社会のために何ができるのかを考え、生徒自らが企画し運営する取組を始めた。その中のひとつである「藍中のきまり検討委員会」では校則改定に取り組み、新聞記事にも幾度か掲載された。驚いたのは、生徒が校則改定後の新

聞社からのインタビューで、「これからが始まりです。自分たちを信頼してくれた先生方の気持ちに応えなければなりません」と力強く話したことだ。このような生徒が育てている藍住中学校を誇りに思う。また、コミュニティ・スクールを導入し、「町ぐるみで子どもたちの宝を発見しよう！～大人のまなざしが子どもたちの未来を創る～」をテーマに、できることから始めた。いろいろな地域の方に説明を行い、協力をお願いするわけだが、「校長の名刺」は「誰にでも会うことのできるカードだ！」ということに気づいた。そこで、以前から「ゆめタウンのスタバ前広場で演奏会ができれば素敵だろうな」と思っていたこともあり、初めて支配人さんにお会いした時に学校への協力を依頼し、ゆめタウンで中学生の吹奏楽部による演奏会を実現することができた。また、校内のベランダにある「空中庭園」の花壇の手入れを協力してくださっている地元の福寿会の方からは、「生きがいを与えてくださってありがとうございます」という言葉をいただいた。学校ということは、地域の人々を結ぶ“ハブ”としてかけがえのない存在なのだ強く感じている。このような素敵な生徒や地域の人たち、そして何より変革を恐れず、共に開かれた学校づくりに参画してくださっている教職員の方々に深く感謝したい。

思えば40年近く前、徳島大学で多くの方々に大変お世話になったと年を重ねるにつれ、思いが強くなっている。当時を振り返ったとき、よく卒業させてくれたものと大学の懐の深さを感じると共に、同級生からは「誰のおかげで卒業できたと思う？」と初心に帰った気持ちにさせてくれることが有り難い。あの時の出会いが今につながり、人と人の縁の不思議さと素晴らしさを改めて感じている。今までの道のりを振り返った時、教育哲学者 森 信三の言葉をいつも思い出す。「人間は一生のうちに逢うべき人には必ず逢える。しかも、一瞬早すぎず、一瞬遅すぎない時に。しかし、内に求める心なくば、たとえその人面前にありとも、縁は生ずるに至らず」

(昭和63年 教育学部中学校教員養成課程物理学教室卒)



校則の見直しアンケート(ゆめタウン)



|エ|ッ|セ|イ|

徳島大学とともに!

にし か 賀 よ 代



I ミニ同窓会の実現

私は、昭和49年に教育学部中学校教員養成課程（家庭科専攻）に入学。卒業後、高校と特別支援学校で38年間勤務。その後2年間の再任用。退職後は、ゆったりとした時間を過ごすことができるようになり、お世話になった方や小中高大の同窓生と会う機会がとれるようになりました。

大学卒業後、年賀状のやり取りが続いている友の中で、茶道部の仲間が5人。コロナがきっかけで、ZOOMで再会。次は大学で会おうと約束。

今年5月25日（木）ミニ同窓会の実現。図書館（私たちが在籍していたときのまま）前で集合→構内を散策→学食で昼食→体育館の部室等の見学→旧教育学部棟前で記念撮影→下宿跡を訪問→茜庵でのお茶会→徳島中央公園の散策→解散。

現職中は、なかなか全員で会うことができなくても、出張や私用（結婚式、帰省など）の時にお互いに声をかけあい、都合のつく数人で会う機会が何度

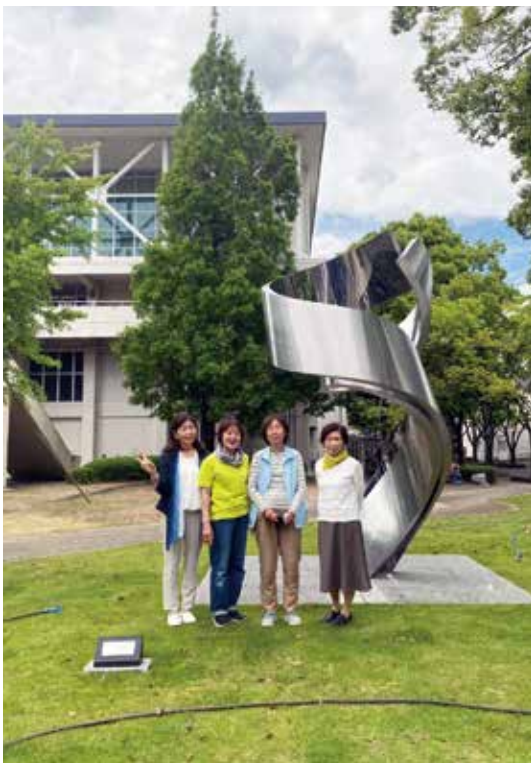
かありました。このようなことの積み重ねが今回のミニ同窓会の実現となりました。

私は嫁ぎ先が大学のすぐ近く。退職後は、大学構内が散歩コースとなり、同窓生に大学の様子をLINEで知らせてきました。今回、下宿跡訪問の途中に我が家にも寄ってもらい、懐かしい大学時代の写真を一緒に見る機会もとれました。

同窓会の計画を実現するため、涓水会事務局に何度か問い合わせをしたことがきっかけとなり、今回の投稿につながりました。また、私たちが茶道部の仲間であることから、現在の茶道部の練習にお誘いがありましたが、夕方5時からの練習には参加できませんでした。

II 着物の魅力を若い人たちに伝える

私は着物が大好き！退職前に勤務した特別支援学校では、生徒たちに着物の魅力を伝える授業にも取り組みました。退職後は、まず自分が和裁を学ぼうと和裁学園に問い合わせました。その当時は専門に和裁を学ぶ課程しかなかったので、自分が習いたいような講座を企画し、「ASK和裁講座」を開講。ASKは「阿波の すてきな くらし」のイニシャル。私の憧れの生活スタイルをイメージして名付けました。



ミニ同窓会 5月25日 旧教育学部棟前で



工場見学で反物ができあがる過程を学習

徳島市退職校長会講演会

会長 いし かわ かず ゆき
石 川 和 幸

徳島市退職校長会は、会員の研修と親睦を図り、合わせて本市の教育振興に寄与することを目的として活動を続けてきましたが、昨年度、解散ということになりました。しかし、会の存続を願う声が多かったことで、すぐに新たな陣容で再出発をしました。会員数は275名から67名にまで減少しましたが、今年には会員が83名になり、「参加はできませんが、会員となることで協力を」という高齢の会員も多い中、今回の総会には30名の出席を得ました。会員数は減少しましたが、参加率からみると会の存続を願う会員の熱意を感じました。そんな会員の熱意を受け、今まで続けてきた活動を更に進めていきたいとの思いを強くした総会でした。

さて、本講演会は令和5年度の総会に併せて、次のような要領で実施をしたものです。講師の石倉先生には、多くの資料をもとに、わかりやすくご講演をいただきました。

期 日 令和5年5月14日(日)

会 場 ザ・グランドパレス

演 題 「がんと相談支援センター
～日々進歩する抗がん剤、そして手術～」

講 師 徳島赤十字病院
医療・がん相談支援センター長
石倉 久嗣 氏

講演概要

○がんとは

○がんの予防策は
危険因子を減らすこと

○抗がん剤の目的は
延命、症状緩和である（治るわけではない）

○保険が適用される標準治療こそ最高の治療法
・標準治療は平凡な治療という意味ではない
・先進治療は必ずしも最高の治療ではない

○信頼できる専門家とは
・標準治療を推奨し、他の医師と治療判断が変わらない

がんの予防～がんを防ぐための12か条	
1条 たばこは吸わない	8条 適切な体重維持
2条 他人のたばこの煙を吸わない	9条 ウイルスや細菌の感染予防と治療
3条 お酒はほどほどに	10条 定期的ながん検診を受ける
4条 バランスのとれた食生活を	11条 身体の異変に気がついたらすぐに受診を
5条 塩辛い食品は控えめに	12条 正しいがん情報でがんを知ることから
6条 野菜や果物は豊富に	
7条 適度に運動	

○がん治療がうまくいく人

- ・通院しやすい病院を選ぶ
- ・標準治療を尊重する
- ・服薬や食事の記録をつけ、食べられるものから食べる
- ・できるだけ仕事をする
- ・看護師や事務スタッフの名前も覚える
- ・ネット情報の集め方のルールをつくる

○まとめ

- ・がん治療は日々進化している
- ・自分に合った治療法が見つければ、進行があっても、長期生存が可能
- ・まずは検診、かかりつけ医に相談を
- ・がん相談支援センターも有効に活用を
- ・そして信頼する専門医へ



年齢的にもがんが身近なものとなっている会員が多く、わかりやすく大変有意義な講演であったとの声をたくさんいただきました。

(昭和41年 学芸学部小学校課程数学教室卒)

第5回 阿波の国子ども歌舞伎公演

～感動を広げよう～

NPO法人 阿波の国子ども歌舞伎 理事長 **瀬 戸 昌 子**

「阿波の国子ども歌舞伎」では、徳島県内の子どもたちを公募し、子どもたちが歌舞伎を演ずる公演を開催しています。

コロナ禍の中でしたが、無事、第5回公演を開催することができました。例年なら、インフルエンザの心配でしたが、今年はコロナ感染を心配しながらの公演でした。しかし、公募により参加した8名の子どもたちは（石井小学校・佐古小学校・城東小学校・加茂名小学校・助任小学校・四国大学附属幼稚園）そんな心配もどこ吹く風でやり遂げました。

20日間の稽古中、厳しさに涙ぐむ子どももいましたが、子どもたち同士で励ます場面も見られ、園児・児童が見事演じきり、笑顔いっぱいの成就感・達成感を味わっていました。

内容は「阿波三番叟」と松竹新喜劇十八番狂言「大當りお祭提灯」（劇中口上）を子ども用に手直ししたものです。観客の方からは、「大変良かった」「子どもたちは素晴らしい」「徳島の文化となってほしい」と、好評をいただきました。



阿波三番叟。躍動感いっぱい

この体験を通して、子どもたちは大きなこころの財産を得たものと確信しています。今後、あらゆる困難な場面に直面しても頑張り、多方面で頑張ってくれるものと確信しています。

現実には、先輩たちはいろんな方面で頑張っています。とてもうれしい限りで、私たちにも活力をもらっています。

「阿波三番叟」は徳島県の産物・地名・よしこの等が挿入されており「阿波の国子ども歌舞伎」独自の三番叟であるので、今後、徳島県の文化とすることを目標としています。そして、阿波の国子ども歌舞伎が徳島県の文化振興に寄与できるよう頑張ります。

日 時 令和4年12月25日(日) 13時開演
 会 場 あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）
 内 容 「阿波三番叟」「大當りお祭提灯」
 指 導 水口 一夫
 （大阪松竹株式会社関西演劇部）
 出 演 県内の園児・児童8名
 主 催 NPO法人 阿波の国子ども歌舞伎

（昭和44年 学芸学部小学校課程歴史教室卒）



「大當りお祭提灯」の一場面

総科ニュース

※この総科ニュースについての詳細は、徳島大学総合科学部総務係にお尋ねください。

徳島大学総合科学部総務係 TEL：088-656-7103 FAX：088-656-7298

E-mail：sksoumuc@tokushima-u.ac.jp

【総合科学部の1年】

令和4年(2022)7月～令和5年(2023)6月

＊令和4年8月 総合科学部振興会総会の開催

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和4年度の総合科学部振興会(在学生の保護者会)総会は参集形式での開催を中止し、書面報告・決議により実施しました。

＊令和4年8月7日(日) 総合科学部振興会オンライン保護者懇談会の開催

Zoomおよび電話を利用した総合科学部振興会オンライン保護者懇談会を初めて開催しました。

＊令和4年8月 オンラインオープンキャンパスの開催

新型コロナウイルス感染症拡大防止、及び全国的な学部広報の推進という観点から、令和4年度の総合科学部オープンキャンパスはオンラインで行われました。コース紹介などの動画コンテンツをオンデマンド方式で配信したほか、8月9日(火)にはZoomを使ったLIVE OPEN CAMPUSを開催し、県内外の多くの方々に参加いただきました。

＊令和4年9月13日(火) 第27回新構想学部教育・研究フォーラムに参加(開催校：広島大学)

第27回新構想学部教育・研究フォーラムが広島大学で開催され(オンライン会議)、「総合知」の創出・活用にかかる課題等について意見を交換しました。

＊令和4年9月28日(水)～29日(木) 令和4年度地域系大学・学部等連携協議会に参加(開催校：金沢大学)

令和4年度地域系大学・学部等連携協議会が金沢大学で開催され(対面形式)、大学の地域連携・高大連携の課題と取組等について意見を交換しました。

＊令和4年9月30日(金) JR四国主催の旅行企画コンペ「地域観光チャレンジ」で本学部生の企画案が銅賞を受賞

四国4国立大学が参加するJR四国主催の旅行企画コンペ「地域観光チャレンジ」で、総合科学部学生による旅行企画案2案が発表され、うち1案が銅賞を受賞しました。これらの企画はJR四国のツアーとして商品化され、令和5年6～7月に催行されました。

＊令和4年10月6日(木) 第22回国立大学法人17大学人文系学部長会議に参加(開催校：福島大学)

第22回国立大学法人17大学人文系学部長会議が福島大学で開催され(オンライン会議)、人文系学部の教育・研究・組織運営等にかかる課題について意見を交換しました。

＊令和4年10月21日(金) 在学生と学部長との懇談会の開催

学生7名、教職員5名が参加し、学部のカリキュラム、学生生活、施設・設備等について意見交換を行いました。いただいたご意見は、今後の教育・研究環境の改善に反映させてまいります。

＊令和4年10月21日(金) 優秀学生(3年次学生)表彰式

学業成績が優秀な学部学生(3年次学生)に贈られる優秀学生表彰式があり、優秀学生10名を表彰しました。表彰者は次のとおりです。

〔国際教養コース〕 櫛渕英、渡慶次良奈

〔心身健康コース〕 下川裕子、杉村建樹

〔公共政策コース〕 中川結稀、岡山千夏、中泉陽菜

〔地域創生コース〕 牧田亜弓、佃紗也香、元木まりあ

＊令和5年2月7日(火) 康楽賞贈与式

徳島大学の優秀な専任教員および学生を対象として、公益財団法人康楽会から贈られる「康楽賞」の贈与式が長井記念ホールで行われました。総合科学部関係の受賞者は次の方々です。

〔教員の部 学術研究関係〕

大学院社会産業理工学研究部准教授 山本 哲也

〔学生の部 学術研究関係〕

大学院総合科学教育部博士後期課程3年 喜多郁弥

大学院創成科学研究科博士前期課程2年 浅川凌

総合科学部4年 高藤陸未、松島明日香

〔学生の部 奨学生関係〕

大学院創成科学研究科博士前期課程2年 緒方麻衣

総合科学部4年 富田麻衣、原桜子

＊令和5年2月20日(月) 大学院修了予定者と教育部長・専攻長との懇談会の開催(オンライン)

大学院修了予定者3名、教職員6名が参加し、カリキュラム、論文指導体制、研究設備等について意見交換を行いました。いただいたご意見は、今後の大学院の教育・研究環境の改善に反映させてまいります。

***令和5年3月23日(木) 令和4年度卒業式・修了式**

令和4年度の卒業式・修了式は、感染防止対策を講じた上で、アスティとくしまで対面形式で行われました。学部卒業生は172名、大学院修了生は創成科学研究科博士前期課程地域創成専攻14名、臨床心理学専攻4名、博士後期課程地域科学専攻1名。また、学位記・卒業証書の受け渡しの式を学部において対面形式で行いました。

***令和5年3月23日(木) 優秀学生(4年次学生)表彰式**

学業成績が優秀な学部学生(4年次学生)に贈られる優秀学生表彰式があり、優秀学生10名を表彰しました。表彰者は次のとおりです。

〔国際教養コース〕 富田麻衣、中釜陸深

〔心身健康コース〕 山内芙優、高藤陸未、野口奈々夏、
細川鈴香

〔公共政策コース〕 松島明日香、真相紗綾

〔地域創生コース〕 篠原郁実、原 桜子

***令和5年3月23日(木) 渭水会会長賞表彰式**

研究活動等で優れた成果を挙げた学部・大学院学生に贈られる渭水会会長賞表彰式があり、4名の学生を表彰しました。表彰者は次のとおりです。

〔大学院創成科学研究科博士前期課程〕 眞島 凌

〔国際教養コース〕 小嶋誉大

〔心身健康コース〕 山内芙優

〔地域創生コース〕 原 桜子

***令和5年4月 連携教職課程の開設**

四国の国立5大学(香川大学、愛媛大学、高知大学、鳴門教育大学、徳島大学)による連携教職課程が開設されました。徳島大学は「美術」の教員養成に参画しています。

***令和5年4月6日(木) 令和5年度入学式**

令和5年度の入学式は、感染防止対策を講じた上で、アスティとくしまで対面形式で行われました。入学人数は、総合科学部170名、大学院創成科学研究科博士前期課程地域創成専攻16名、臨床心理学専攻13名、博士後期課程創成科学専攻2名。

***令和5年6月3日(土) 令和5年度渭水会総会の開催**

令和5年度の渭水会総会を対面形式で開催、学部長挨拶の中で総合科学部創立150周年記念事業の計画について報告を行いました。

***令和5年6月19日(月) 令和5年度総合科学優秀賞受賞者表彰式**

優れた研究成果を発表した総合科学部教員に対して贈られる総合科学優秀賞に津村秀樹准教授が選出され、表彰式が行われました。受賞にかかる研究分野は「地域創生・総合科学に関する研究」「人間文化・人間社会の向上に関する基盤研究」です。

【人事異動】

***学部長の紹介**

総合科学部の学部長に高橋晋一教授が再任されました。任期は令和5年4月1日～令和7年3月31日まで。

***副学部長の紹介**

以下の通り、副学部長3名が選出されました。任期は令和5年4月1日～令和7年3月31日まで。

教育・グローバル化担当 依岡隆児 教授

研究・大学院担当 三浦 哉 教授

地域連携担当 矢部拓也 教授

***コース長の紹介**

総合科学部社会総合科学科の各コース長に以下の4名が選出されました。任期は令和5年4月1日～令和6年3月31日までの1年間。

国際教養コース 村上敬一 教授

心身健康コース 佐藤 裕 教授

公共政策コース 饗場和彦 教授

地域創生コース 中村 豊 教授

***教職員の異動**

令和5年3月31日付で、次の教員が退職されました。

田島俊郎 教授(フランス文学)

座喜 純 准教授(イスラム文化研究)

柴田堯史 講師(憲法学)

令和5年4月1日付で、次の教員が着任されました。

武 学穎 准教授(経営学)

兵田愛子 准教授(憲法学)

令和5年4月1日付で、次の事務職員が着任されました。

宮本晴江 氏(総合科学部事務課事務課長)

田村莉奈 氏(総合科学部事務課総務係)

安友夏菜子 氏(総合科学部事務課学務係)

徳大ニュース

1 徳島大学ビジョン「INDIGO宣言」を策定しました

徳島大学では、学長のリーダーシップのもと、本学が育成する人物像や目指す方向性を明確にし、それを学内外のステークホルダーに向けて示すため、徳島大学ビジョン「INDIGO宣言」を策定しました。徳島大学が育成する人物像や目指す方向性を、Integrity（誠実さ）、Noble and Novel（高潔さと斬新さ）、Dynamism and Diversity（活力と多様性）、Inclusive（寛容）、Global（世界への発信）、Open（開かれた大学）の6つに絞り、ビジョンの呼称は徳島県の伝統的な染物である阿波藍にちなんで「INDIGO宣言」としました。

「INDIGO宣言」の新しい情報を随時更新していますので、ご注目ください。

INDIGO宣言
ホームページ



2 学部の周年事業をご案内します

来年度、総合科学部創立150周年を迎えられますが、学内では、昨年度から各学部の周年記念事業が続いております。

まず、2022年10月に工学部創立100周年を迎え、記念式典が2023年5月14日に挙行されました。本来であれば、100周年を迎える時期に開催される予定でしたが、コロナ禍のため、半年ほど延期を余儀なくされ、関係者のご苦勞がしのばれました。

また、本年11月3日には、薬学部が創立100周年を迎え、同日に記念式典、講演会、ホームカミングデイなどの行事が予定されています。

続いて、同じく今年度、医学部が創立80周年を迎え、創立80周年記念事業基金の支援事業を開始しており、記念式典などは、令和6年2月に予定されています。

各学部におかれては、創設の時代から、長年にわたり、様々な組織の統合や改組を繰り返しながらも、同窓会の方々のご支援をはじめ、地域の皆さまの応援をいただきながら、たくさんの優秀な人材を輩出されてきました。徳島大学の発展には、その歴史と伝統があってこそであり、これからも本学が変化する時代に対応し、さらなる飛躍をするため、大学や学部への皆さまのご理解、ご支援を賜りますようお願いいたします。

総合科学部をはじめ、各学部の周年事業については、それぞれの学部ホームページをご覧ください。

3 徳島大学基金のホームページがリニューアルしました

このたび、徳島大学基金ホームページをリニューアルし、公開しました。新しいホームページは、寄附目的別のプロジェクトの紹介やご厚志をいただいた寄附者様からのあたたかいご声援の紹介を行っています。今後も徳島大学へのご理解とご支援を賜れますよう、教職員や学生の情報発信とご支援を活用しましたプロジェクト

の実施報告を新しいホームページで発信してまいりますので、ぜひご覧ください。

徳島大学基金
ホームページ



4 同窓生・基金係が未来創造係になりました

令和5年度より、未来創造課の同窓生・基金係を「未来創造係」と名称変更を行いました。業務はこれまでと変更はございません。

同窓生の皆さまと大学の架け橋になるよう、今後とも尽力いたしますので、よろしく願いいたします。

徳島大学公式SNSとびざん会HPのご案内

公式SNSでは、徳島大学の情報や活動情報をいち早くみなさまにお届けしています。学生活動や入試情報、奨学金などの情報をはじめ、日々の何気ないキャンパス風景など、学生広報スタッフも記事を掲載し、活躍しておりますので、応援してください。

また、同窓会の近況報告やオンラインびざん会の動画も随時掲載しておりますので、ご覧ください。

SNSのご案内

徳島大学公式
X(旧Twitter)



徳島大学未来創造係
Facebook



徳島大学びざん会



徳島大学オンラインびざん会
(YouTubeチャンネル)



渭水会会員の情報をお知らせください

渭水会会報 第51号（2022年12月発行）が住所不明により事務局に返送された会員について掲載させていただきました。

消息をご存知の方は、渭水会事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

S14	橋本 豊治 大黒サチエ	S63	椿本 明代	H21	津島 知彦 平嶋 和磨	H27	高木 美和
S20	布川 繁孝	H2	小島 明子	H22	桑田 和宏	H29	小西 竜馬 城下 裕菜
S22	南出 三郎	H3	岡本 美紀	H23	上井 優佑	R1	GANTULGA UUGANBAATAR
S24	長岡 脩子		宮武真由美	H24	加藤 嵩規		金光 佑太
S25	加納 時子		小嶋 圭		松田 遥		田中 智規
S27	中島 由恵		須藤 秀紹		松本千奈美		藤巻 晃
S33	井阪 昭代 前田トヨ子	H4	小川 美紀		藤井 愛未		富永 彩子
S34	篠原 節	H5	堺井千江美		藤谷 祥子	R2	伊勢 七海 岡村 英作
S37	山上 京子		大角 英敬		福頼明日菜		角 瑞穂
S39	大館 幸生	H6	原田多美子		北野 夏穂		森本 博幸
S41	香川 裕子	H9	村上 裕一	H25	井上まゆ子		高橋 克幸
S43	塩谷 梢	H10	久保 裕		三好 純平	R3	寺本 真理
S44	山田 公子	H12	迎 晶子		住田 結花	R4	清水 勇輔
S45	檜垣 公明		山星 公美		上平 芹香		曾 宇哈
S48	森口 照代	H14	山本 景子	H26	荻野祐香里		陳 佳貝
S49	小賀由貴子		赤澤 陽子		幸徳 晃児		壺田 一平
S57	白鳥貴美子	H15	川野 範子		松浦智恵美		木村 千春
S58	岡田貴美子		石川 哲		大竹 信也		矢田 詩音
S59	木口 幸子	H18	眞島 優子	H27	三浦 礼智		
S60	徳永 啓牟	H19	若林真理子		山本 崇人		
S62	土橋 昭子	H21	松本 聖生		谷先 直子		
			H21	三木 綾子		仲野 智子	

会 員 訃 報

下記の会員の方々のご逝去の旨、お知らせいただきました。謹んで哀悼の意を示し、ご冥福をお祈り申し上げます。

S10	前川藤三郎	S23	篠原 勇	S29	井内 光子	S34	横手 義人
S11	中津原昌子		長江巳代子		杉原トシ子	S36	田中 弓子
S14	野口 信子		西村 慶子		筒井 長幸	S37	稲井 孝 小野寺 穰
S17	田村千恵子 新田茂理雄	S24	奥野 長子	S30	上田 正昭	S43	谷川 裕
S18	篠宮喜代子	S26	三橋喜代子	S31	藤本 忠昭	S45	瀬尾 啓子
S29	阿部 勲		多田三壽利	S32	佐光 典子	H1	長尾 恵子
S20	辻 孝 中川 雍久		寺沢 栄		出口 恒	H2	西 弓子
S21	原市キヨ子		原田 裕子	S33	松川 淳子	H18	宮崎 厚子
S23	上浦 良子	S27	松浦不二也	S34	橋川 弘		
	岡村 生代		稲飯 明美		伊藤 良徳		
		S28	内藤 好子		工藤 弘子		
			住友 良二		工藤 正隆		

（令和4年11月～令和5年10月に連絡を下された方）

事務局だより

●助成事業の申し込みについて

助成事業の要項に該当する事業をご計画の会員がおられましたら、お申し込みください。P37の申請書をコピーしてお使いください。事務局にご連絡いただければ、様式（Word形式）をお送りします。お問い合わせ・お申し込みについては事務局までお願いいたします。

●異動届のお願い

会員相互の親睦等同窓会活動に、また、会報のお届けにと名簿は、涓水会にとって、重要な財産のひとつです。名簿の整備・管理には、鋭意努力しておりますが会員の皆様方のご協力が不可欠です。

現在、転居等により会報をお届けできていない会員も多数おられます。お手数ですが異動等ございましたらその都度事務局までお知らせいただければ幸いです。

会員数も膨大になり同姓同名の会員もおられます。誤記を避けるためにも、卒業（修了）年、課程（学科）、専攻（コース）、旧姓を記載いただき、できるだけ文書・ファックス・メールにてお知らせくださいますようお願いいたします。

●終身会員募集中！会費がお安くなりました

涓水会は昭和54年入学生より終身会費制になりましたが、まだご存じない方がおられます。このたび終身会費を改定し、気軽に入会できる価格となりました。終身会員には卒業生や大学の情報満載の会報

終身会費納付額(2023年6月改定)

卒業（修了）年	納付額
昭和45年以前	1,000円
46～51	3,000円
52～57	5,000円

郵便振替口座番号 01610-1-21392
加入者名 徳島大学涓水会

が郵送されます。同窓会の折に、ぜひ終身会員になってくださるようお勧めいただければ幸いです。

なお、会報がお手元に届いている方は、既に終身会員です。ご自分が終身会員かどうかわからない方は、事務局までお問い合わせください。

涓水会事務局

事務局は総合科学部1号館北棟1階入り口すぐ（部屋番号1N01）です。

業務時間および連絡方法は、以下の通りです。

時間／水曜日 13：30～17：00

（祝祭日および大学の休業日は除く）

TEL 088-656-7293（月～金 10：00～17：00）

FAX 088-679-8485

E-mail info@isuikai.jp

URL <https://www.isuikai.jp>

編・集・後・記

●総合科学部創立150周年記念事業について実行委員会で協議を重ねています。涓水会でも、オリジナルグッズ第1弾としてクリアファイルを制作しました。東南光先生の書、平木美鶴先生の作品、樺並木の3枚セットは徳大愛あふれる自信作！おかげさまで好評をいただき、200セット制作し、残りわずかとなっています。さて、第2弾は何を作りましょうか？ なお、制作経費を除いた売上は、総合科学部に寄付する予定です。

●今号の表紙は、平木美鶴先生の版画作品です。実はこの作品、3月に平木先生より涓水会に寄贈いただいたものです。先生自ら設置までしていただき恐縮……。事務所がパッと明るく華やかになりました。



●新型コロナが5類に移行して半年、キャンパスに日常がもどってきました。マスクなしで談笑する学生達の笑顔、キャンパスに響く笑い声……。コロナ前は当たり前だった風景ですが、その日常をかみしめています。



ユーカリの花(総合科学部キャンパスにて)



渭水会